

S1-4

## 2012 年 8 月宮城県・岩手県の被災地・仮設住宅視察報告

### Report of stricken areas and temporary housing in Miyagi and Iwate Prefectures in August 2012

新宮清志<sup>1</sup>

Kiyoshi Shingu<sup>1</sup>

Abstract: The author visited stricken areas in Miyagi, Iwate, Aomori Prefectures and Hokkaido last year, and reported the contents of those in the Reference 1. In this August, the author visited stricken areas in Miyagi, Iwate Prefectures again. This report is the outline of the inspection.

#### 1. はじめに

昨年 (2011 年) 4 月, 5 月, 7 月, 10 月の東北 3 県の沿岸部と北海道奥尻島の被災地視察<sup>[1]</sup> に続き, 本年 8 月 16 日~18 日に宮城県・岩手県の被災地ならびに仮設住宅の視察の機会を得たので, その概要を報告する.

#### 2. 東北地方被災地の視察概要

##### 2.1 宮城県 (8 月 16 日)

南三陸町役場で復興計画について説明を受けた後, 歌津にある仮設住宅 (240 戸) を訪問した. 役場勤務の親が住んでおられる居室も拝見させて戴いた. Fig.1 に示すように隣棟との間隔が極めて狭く, 短時間の訪問者である我々にも息苦しさを感じたほどであるから, ここに住んでおられる方々はさぞつらいものがあると思われる. 1) 床下の水道配管は冬には凍結したとのこと. 2) 「風除室」を玄関部分に後付けで施工とのこと. 3) ここでの生活は, 規定では 2 カ年となっているが, 実際には 5~6 年に延びそうとのこと.



Fig.1 Stricken housing in Utatsu, Minamisanriku-cho (Miyagi Prefecture)

歌津館浜地区の仮設住宅は, 地元の杉を使用したとのことで, ここは自然のぬくもりがありとても感じの

良いものであった (Fig.2). 冬季に於ける水道管の凍結は無かったとのことである.



Fig.2 Stricken housing used local sugis in Utatsu-tatehama, Minamisanriku-cho (Miyagi Prefecture)

盛岡市へ移動の途中, 気仙沼では大型漁船 (Fig.3) がそのまま残してあるのを目撃し, 陸前高田では有名になった「奇跡の一本松」(Fig.4)を見たが, 完全に枯れていたようである (この約 1 週間後の報道によると, 大金を投じて記念のため保存されることになった).



Fig.3 A left large fishing boat on land (Kesenuma City)

1 : 日大理工・海建, Dept. of Oceanic Architecture and Eng., CST, Nihon-U.



**Fig.4** “Kiseki-no-ippou-matsu” just before cut down and a collapsed building (Rikuzen-takada City)

### 2.2 岩手県 (8月17日)

盛岡市を早朝に発ち、宮古市田老町着。昨年にも訪問した田老町では、瓦礫と化した家々はすっかり片付けられて草原のようになり、壊れた防潮堤はほぼそのまま残されていた (Fig.5)。



**Fig.5** Broken tide embankments and Taro town (almost nothing, Miyako City)

宮古市役所と釜石市役所を訪問し復興計画の説明を受け、役所の方と被災地・仮設住宅の視察を行った。

昨年視察した釜石市唐丹町の防潮堤を再訪問した。瓦礫と化していた町はすっかり片付けられ草が生い茂り、防潮堤では修復工事を開始しかけた模様 (Fig.6)。



**Fig.6** Broken tide embankments (Toni-cho, Kamaishi City)

### 2.3 宮城県 (8月18日)

昨年につき、石巻市・女川町等を視察した (本年はUR都市機構の方の案内)。石巻市河北町長面地区では地盤沈下がひどくすっかり海面下になったところがある (Fig.7. こういう地盤沈下は、昨年訪問した牡鹿半島などでも見られた)。前方には道路や陸地があったとのことであるが今は海となっている。この地区はあまり訪れる人がいないとのことである。多くの人命が失われた大川小学校から車で10分程度の距離である。



**Fig.7** The road and land are not seen because of subsidence (Nagatsura, Kahoku-cho, Isinomaki City)

### 3. おわりに

今回の視察を纏めると、次のことが云える。1) 地盤沈下に伴う国土面積の減少は、可及的速やかに回復すべきことである。2) 1年程度前の前回視察と比べると、仮設住宅が増え瓦礫が減った他は表面上の変化はあまり大きくない。3) 仮設住宅は、場所により相当窮屈なものからやや芸術的なものまであり雰囲気は相当異なる。4) 幾つもの問題点を抱えながらも各役所では復興計画が着実に進みつつある。

### 4. 謝辞

本調査に際し、下記の方々の協力があつた。吉野博博士 (東北大学名誉教授、元日本建築学会副会長)、及川明氏・及川貢氏・大山幸信氏 (南三陸町役場)、辻村俊彦氏 (岩手県)、細川政洋氏・中洞悟氏 (宮古市役所)、小池幸一氏・小友光晴氏・清水啓之氏・三浦康男氏・松山梨香子氏・野里茂生氏 (釜石市役所)、久坂斗了氏 (UR都市機構)。なお、平成24年度理工学部東日本大震災復興支援研究プロジェクト研究費 (代表: 建築学科・古橋剛教授) を使用した。あつく御礼申し上げる。

### 5. 参考文献

[1] 新宮清志: 宮城県・岩手県・青森県ならびに北海道奥尻島の被災地視察報告, 日本建築学会 シンポジウム「東日本大震災からの教訓, これからの新しい国づくり」, pp.223-226, 2012年3月。